序

昭和60年を初年度とする、厚生省心身障害研究「小児慢性腎疾患の予防管理・治療に関する研究」班は計画の３年を経過し、今年度をもって１区切りをつけるに至った。本研究班には臨床面から、小児腎疾患のみならず成人腎疾患の専門家、その治療基礎面で薬理学、病理学、生化学の専門家、病因面で免疫学、病理学の専門家、又管理・予防の面から臨床、行政、疫学の専門家等、各分野の多くの方々の参加を得て、連携プレーの上で短時間に多くの成果を挙げることができたことは何よりのよろこびである。なによりも全国的な小児腎疾患の実態を把握し、各病型別に臨床経過の変遷を見守る体型を確立し得たことは、わが国における小児期発症の腎疾患の経過を類推する上で、今後長期追跡調査を要することではあるが、まことに有意義な結果を得たと言えよう。又臨床治療面の研究で、それぞれの病態、病期に対応する患者の薬学的反応を含めて治療法が開発されたことは、疾病進展阻止に大きないとぐちを見出したものとして、患児のためによろこびにたえない。

発症要因の研究では、主要病型の腎疾患と、患者保有の遺伝子抗原との関係の示唆が得られた。今後この方面の一層の研究業績の集積を要するものと考えられるが、患児の保持抗原と病型進展との関係を解明する、臨床上重要な物差しとなることを示唆するものとして考えられる。

次に予防、管理面では、学校検尿開始以来15年にわたる今日までの実態を全班員協力の下に調査しその実態を明らかにし得たことは、今後の方向性を検討し、その普及と完全実施に大きな示唆を与えるものとして評価されるべきもので、従来の指針を改善するに足る業績を得て、生活管理指導指針並びに検尿検査項目の改正を提言され、世に出すことになったことは、本研究班の初期の目的を充分に果し得たものと言えよう。

これら各項にわたり基礎的基盤を確たるものにし、臨床経過の裏付をしたのは病理学、薬学、生化学等専門家の参加を得てはじめてなし得たことであり、貴重な資料提供と研究推進に寄与されたことに対し、深甚の謝意を表するものである。

最後に、本研究班発足以来各研究班長を担当された北川教授、酒井教授、橋爪博士ならびに、事務面を担当された公衆衛生協会および日本大学小児科教室の各位のご尽力に対しお礼を申し上げるとともに、本研究班発足に際しご尽力を賜り、３年間にわたりご指導、ご鞭撻をいただいた厚生省児童家庭局母子衛生課の小林前課長、近藤課長はじめ関係各位のご苦労に対し深甚の御礼を申し上げると共に、昭和63年度以降継続される新研究班の研究にご尽力賜るようお願い申し上げてお礼の言葉とする。

総合班長　石　丸　隆　治